

京極湿原のヤチランを確認

美唄市 新田 紀敏¹⁾
札幌市 高橋 英樹²⁾

ヤチランについて

ヤチラン *Hammarbya paludosa* (L.) Kuntze は道内のほか八甲田や尾瀬などの湿原に生育する高さ 5-10cm の小さなランである (大橋ら 2015)。米倉・邑田 (2012) では *Malaxis* 属となっているが、最近扱いが変わっている。

希少種カテゴリーは環境省では絶滅危惧 IB 類 (EN) (環境省 2015)、北海道では絶滅危機種 (Cr) (北海道 2001) とされており、「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」で採取等が禁止される指定希少野生動植物と販売などが規制される特定希少野生動植物に指定されている。

道内の最近の分布状況に関しては極めて情報が少なく、本会会員からの情報を総合すると、サロベツ、猿払、斜里、根室、京極などにあったようだが、現在確かなのはサロベツと京極に限られるようである。北大総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS) には

斜里産の古い (1971 年以前) 標本があるのみで、この採集地の生育環境は既に失われているとの複数の会員からの証言があった。また、北大植物園標本庫 (SAPT) には道内産のヤチラン標本はなかった。すなわち、SAPS の標本を見る限り、道内に現存する産地の標本は一つもなく、ヤチランの存在を示す証拠がないことになる。そこで 2018 年 8 月 10 日に京極湿原の調査をする機会を得たので、標本採集を含めてヤチランについて簡単な調査を行った。作製した標本は SAPS に収蔵されている (図 5)。

京極湿原の紹介

京極湿原は後志地方、京極町内の北緯 42° 57'、東経 140° 56'、標高 870m 付近、本俱登山 (1009m) の山頂近くにあり (図 1)、面積約 4ha である。北海道で最も古い起源を持つ湿原とされているが、1980 年以降と比較的最近発見されている (辻井ら 2007)。アカエゾマツ林に囲まれた中・高層湿原で、調査時はゼンテイカが咲き、

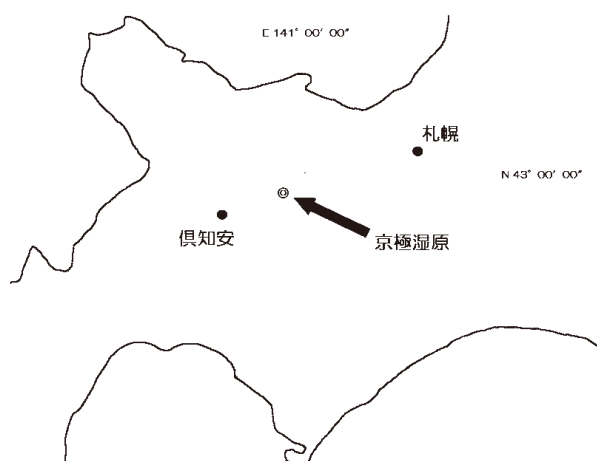


図 1 京極湿原位置図



図 2 アカエゾマツに囲まれた京極湿原